

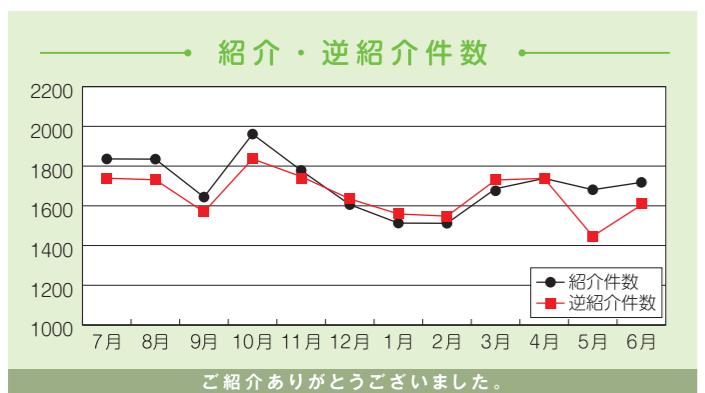
新任医師紹介

5月～8月に新しく採用になった医師を紹介します。

第二小児科医師 羽根田 泰宏 R1.7.1	第一麻酔科医師 内村 えりか R1.7.1
山口大学卒、医師16年目の羽根田泰宏と申します。小児アレルギーを専門にしております。松江市を中心にアレルギー診療の充実に尽力する所存ですので、どうかよろしく御指導の程、お願い申し上げます。	島根大学麻酔科から参りました。今後とも、よろしくおねがい致します。
乳腺外科医師 川又 あゆみ R1.7.1	血液内科医師 喜澤 佑介 R1.8.1
学生時代から乳癌診療に興味がありましたので、携わる機会を得て非常に嬉しく思っております。患者さんが受診して良かったと思える診療を目指します。	血液内科の喜澤と申します。卒後5年目でまだ若輩者ではございますが、患者さんの立場に立ち、気持ちに寄り添った医療を行えるよう努力する所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

退職者

●令和元年6月30日付
第一麻酔科医師 郡 司 晃太郎



れんけいだいご

vol.42
2019年8月号

放射線科部の紹介



放射線科部長
大内泰文

す。止血においては、交通外傷や産科危機的出血、胃静脈瘤破裂など良性疾患にも用います。また良性疾患では、透析シャント不全・閉塞に対するVAIVT、肺動静脈奇形に対する塞栓術、胃食道静脈瘤・高アンモニア血症に対するIVRも行います。経皮穿刺術においては膿瘍ドレナージ、生検等も行っています。現在、点滴が難しい方、中心静脈栄養や抗癌治療をされる方の中心静脈カテーテル留置、CVポート留置に力を入れており、日帰りでのポート留置も可能です。この他にも様々なIVRを行っています。

放射線治療は、手術、化学療法と並んで癌治療の三本柱の一つと言われ、その目的は、腫瘍に放射線を集中的に照射し、かつ周囲の正常組織への線量を極力低減させて合併症を低減し、癌の根治や症状を緩和することです。併せて機能や形態の温存も可能となり、高齢者にも適応可能な低侵襲癌治療です。当院では症例ごとに照射する部位や大きさ、照射方法、処方線量とその線量分割法を検討し、患者さんごとに適切で個別化された癌治療計画によるオーダーメイド治療を行っています。

放射線診療、とりわけ癌診療は、その性質上病院の総合力が求められ、チーム医療遂行が不可欠です。人的、設備的体力が問われると言っても過言ではありません。当院には各診療科トップクラスの専門医が揃い、さらにチーム医療遂行ができる診療体制にあります。安心して当院に御紹介、ご相談頂けたらと思います。

行事案内

病院まつり
9月14日(土) 松江赤十字病院

安来圏域スキルアップセミナー
10月17日(木) 安来第一病院

第13回地域医療従事者スキルアップセミナー
11月9日(土) 松江赤十字病院

雲南圏域スキルアップセミナー
11月21日(木) 雲南市立病院

＼是非、ご参加ください。／





心臓弁膜症外来 開設のご案内



循環器内科副部長
春木伸彦

当院では、本年4月より山陰地方では初めて『心臓弁膜症外来』を開設致しました。この専門外来では、人口の高齢化によってますます増加することが予想される心臓弁膜症に対して、二次元・三次元心エコー図検査（経胸壁・経食道）や負荷心エコー図検査、CT、MRI、心臓カテーテル検査などの各種画像診断を活用して適切な重症度診断を行い、循環器内科医および心臓血管外科医等で構成されたハートチームで最適な治療方針を検討し、患者様にご提供させていただきます。

近年の心臓弁膜症は、かつてのリウマチ性が減少し、加齢や動脈硬化に起因した変性性弁膜症が増加しています。特に大動脈弁狭窄症と僧帽弁閉鎖不全症の有病率は増加の一途をたどっています。しかし、心臓弁膜症は無症状の時期が長く続き、症状が出始めた頃にはかなり進行している事が少なくありません。また診断が遅れる事によって適切な治療タイミングを逃してしまう事もしばしば見受けられます。そのため、心臓弁膜症外来では軽症・中等症の段階から半年ないしは一年毎に定期的な心エコー図検査等を行い、弁膜症の進行度を適切に見極め、治療介入の時期を逃さないようにする事も目的の一つです。

例えば、「心雜音を指摘された」などの弁膜症を疑う典型的なきっかけでなくとも、「最近身体がしんどい

(せつい)」、「動くと息切れや動悸がする」「階段を2階まで休まず上れない」など日常生活における些細な症状から弁膜症の存在を疑うことがあります。この様な症状を訴えられる患者様がいらっしゃいましたら、ぜひ心臓弁膜症外来に一度ご相談ください。また「既に弁膜症と診断されているが、その重症度と自覚症状が一致しない」といった患者様では、運動時や薬物負荷時の心臓の反応性を評価することで、乏しかった自覚症状を炙り出すことが可能な場合があります。当院ではこの負荷心エコー図検査も積極的に行っております。「弁膜症と診断され治療が必要と言われているが、外科的手術の適応について相談したい」「カテーテル治療などの外科的手術以外の治療法を知りたい」といった専門的なご相談に対しても、ハートチームによる症例検討を介してご返答させて頂きます。

近年、外科的手術に代わる方法として低侵襲のカテーテルによる弁膜症治療が爆発的に普及しております。当院でも本年4月より大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル的大動脈弁移植術（TAVI）が試行可能となり良好な成功を収めています。また僧帽弁閉鎖不全症に対する経カテーテル的僧帽弁修復術（MitraClip）は、鳥取大学循環器内科と協力してその適応を見極めた上で治療を依頼しています。この治療も既に当院から3例の患者様を紹介しています。

診断技術や治療方法の発展に伴い、心臓弁膜症も多くの症例が根治できる様になってきています。この山陰地方で、心臓弁膜症を患っておられる患者様に、より正確な診断と適切な治療を提供し、健康的な生活を送っていただける様尽力して参ります。



長期療養者の就職支援相談を開始しました

医療社会事業課

上田 崇平

ハローワークと松江赤十字病院が連携し、当院に入院、通院されている患者さんでがん、肝炎、糖尿病などの疾患により長期にわたる治療を受けながら再就職を希望される方への就職支援相談が始まりました。病院内で職業相談や職業紹介を受けられるようにハローワークの専門相談員（就職支援ナビゲーター）が病院に出向き、がん相談員をはじめとする病院スタッフと連携して相談に応じます。

5月27日には、出雲公共職業安定所山田誠所長と当院の大居院長による協定書を取り交わす調印式を行いました。県内では3カ所目、松江市内の病院では初の協定の締結となりました。当院では初回の相談会を6月18日から始めています。

長期療養により離職、転職を余儀なくされた患者さんに対し、安心して再就職、転職できるよう、少しでも患者さんに寄り添い、支援できればと思っています。

また、当院では島根産業保健総合支援センターの両立支援促進員（社会保険労務士）による治療と仕事の両立支援相談会を開催しております。

がん相談支援センターでは、がん相談員が当院に通院しておられない患者さんの相談にも応じておりますので、ご利用、ご相談くださいますようお願いいたします。



問い合わせ先 患者総合支援センター 電話 0852-32-6901